



ロード世界選男子エリート最上位の宮澤

シクリスムエコー No.183 2011年9月号



2011年ロード世界選手権自転車競技大会…………… 2



第46回全国都道府県対抗自転車競技大会…………… 6



第67回全日本大学対抗選手権自転車競技大会…………… 8

2011年MTB世界選手権大会…………… 10



2011年パラサイクリングロード世界選手権大会…………… 11

ACCトラック・アジアカップ2011タイラウンド…………… 12
競技大会結果…………… 13

10月中旬～12月の大会…………… 15

連盟の動き…………… 15

第67回インカレPHOTO…………… 16



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>



2011年ロード世界選手権自転車競技大会

上位入賞はならずも、全員完走!



男子エリート宮澤



男子エリート別府



女子エリート萩原



男子エリート新城

<男子エリート>

45ヶ国から209名の選手が参加した男子エリートレース、スタートはコペンハーゲンの駅からほど近いタイムトライアルのスタート地点。周回コースまでの22km+1周14km×17周(260km)で行われた。心配された天候も好天に恵まれ16℃、寒くて厳しい条件下のレースは避けられた。

10時スタート、一ヶ国最多参加選手数は9名。日本からは宮澤崇史、別府史之、新城幸也の3選手がスタート。スタートから市街地を抜ける6kmはニュートラルスタートとなったが、周回コースに入るまでにハイスピードのレース展開となり、トラブルが心配されたが無事に周回コースに入った。

各国ともにスプリンターをエースにレース展開を組み立てる中、日本チームは個々に有力チームのレース展開に乗り、終盤のレース展開に勝機を窺う。序盤からアタックが頻発するもスプリンターが居る有力な国が逃げを阻止する中、2周目に入りLASTRAS GARCIA Pablo (ESP)、POOS Christian (LUX)、ROUX Anthony (FRA)、IGLINSKIY Maxim (KAZ)、CHUZHDA Oleg (UKR)、KISERLOVSKI Robert (CRO)、KANGERT Tanel (EST) の7名が、集団から抜け出す。メイン集団はこれを黙認したため、徐々にタイム差が広がり、5周目に入るとタイム差は最大8分30秒まで広がる。

スプリンターを擁する有力チームが終盤に向け集団のペースを上げ始めると、トップを走る7名とのタイム差が徐々に詰まって行く中、メイン集団が活性化し再び4名の選手がアタック。メイン集団から抜け出しトップグループの7名を追走し、その差は徐々に詰められトップグループとのタイム差は3分となった。

ラスト5周、道幅の狭い下りの緩いカーブで大集団の落車が発生。行き場を失った別府、新城が道をふさがれ、第2集団に取り残されてしまい、メイン集団に残ったのは宮澤一人だけとなった。

第2集団に取り残された別府と新城は、メイン集団に追い付こうと必死に集団を牽引するがメイン集団には追い付けずに終わってしまった。

ラスト4周回、メイン集団から抜け出してトップグループを追走し

ていた、KAISEN Olivier (BEL)、VAN SUMMEREN Johan (BEL)、PAOLINI Luca (ITA)、CLARKE Simon (AUS)、OFFREDO Yoann (FRA) の5名がトップグループを吸収しトップ集団となる。

メイン集団とのタイム差1分、ラスト3周目に入りゴール勝負に持ち込もうとするイギリス、オーストラリア、ドイツチームが集団をコントロール。序盤から逃げていたトップグループを吸収するが、なおもメイン集団からのアタックは続き3名の選手が最終周に入り10秒前後で逃げる。

イギリスとオーストラリア勢が完全にレースをコントロールし、最終周回ラスト5kmで逃げていた3名も集団に吸収され、集団のまま最終コーナーを曲がる。

直線500m、各チームのラインが一気に加速する中、最終コーナーを10番手前後の好位置で回った宮澤だったが、ゴール前の緩い上り坂で失速してしまい30位でゴール。集団から一気に抜け出したイギリスのスプリンター、カヴェンディッシュが一步抜け出し、強豪ひしめくスプリント争いを制し堂々の勝利を飾った。

予想通りのレース展開で大集団のスプリント争いになったが、最後まで集中力を切らさず力走した宮澤は最高のレース展開であったが最後は力及ばず30位に終わった。260kmを走ってからのスプリントを1人で戦うには大きなハンディであった。

終盤の戦いを意識しすぎて集団の後方に位置してしまった別府と新城は戦わずして終わってしまい、大きな悔いを残す結果となってしまった。

世界で戦えるレベルに上がって来た今、世界で勝つには積極的に戦う気持ちとチーム戦も出来る選手数の参加枠拡大であることを痛感した。

<女子エリート>

1周14km×10周(140km)の周回コースで行われ、42ヶ国146名がスタート。日本からは萩原麻由子選手が出場した。平坦基調のコースはハイスピードのレース展開になるかと思われたが集団からのアタックはなく、終盤まで集団が大きく崩れる事もなく淡々とレースが展開された。

集団が活性化したのはラスト3周回で、カナダ、アメリカ、ニュージューラ

ンドなどがアタックを開始。ラスト2周回に入りHUGHES Clara (CAN) が集団から抜け出す事に成功、独走でメイン集団を引き離し30秒前後のタイム差で逃げ切りを図る。スプリンターを有する国々がゴール勝負に向け集団のペースを上げると、タイム差も徐々に詰まって行きラスト3kmで惜しくも集団に飲み込まれてしまう。

最終コーナーを曲がりスプリント争いは、オランダ勢がラインを作り完璧に思われたが、緩やかなゴール前の登り坂で、昨年のスプリントを思わせるようなゴールスプリントを制したのはBRONZINI Giorgia (ITA) で、昨年

に続き2連覇を果たした。前半から中盤にかけて萩原のアタックを期待していたが、思うような走りが出来ないまま50位の結果に終わってしまった。(強化コーチ 高橋松吉)



【競技結果】(日本出場種目のみ)

2011年U23世界選手権自転車競技大会
(エリート・U23・ジュニア)
(2011/9/19-25 デンマーク・コペンハーゲン)

男子ジュニア個人タイムトライアル (27.8 km)

1	WURTZ SCHMIDT Mads DEN	35:07.68
2	ORAM James NZL	35:11.79
3	EDWARDS David AUS	35:28.47
52	内野 直也 埼玉 湘南パルマレ	38:59.98

男子ジュニア個人ロードレース (126.0km)

1	LECUISINIER Pierre-Henri FRA	2:48:58
2	DEGREVE Martijn BEL	2:48:58
3	LAMMERTINK Steven NED	2:48:58
54	西村 大輝 東京 昭和一学園	2:49:01
97	内野 直也 埼玉 湘南パルマレ	2:49:27
141	清水 太己 東京 BS 伊勢ワール	3:01:59

女子エリート個人ロードレース (140.0km)

1	BRONZINI Giorgia ITA	3:21:28
2	VOS Marianne NED	3:21:28
3	TEUTENBERG Ina GER	3:21:28
50	萩原麻由子 和歌山 CB あさひ	3:21:39

男子エリート個人ロードレース (260.0km)

1	CAVENDISH Mark GBR	5:40:27
2	GOSS Matthew Harley AUS	5:40:27
3	GREIPEL André GER	5:40:27
30	宮澤 崇史 長野 ファルネーゼピコ	5:40:27
120	別府 史之 JPCA ラジオンチャック	5:49:21
133	新城 幸也 沖縄 ヨーロッパカー	5:49:21

男子ジュニアのスタート前、左から清水・西村・内野

<ジュニア>

今年のジュニア世界選手権TT、ロードは9月19日からデンマークのコペンハーゲンでエリートカテゴリーと同じ日程の中で開催された。日本からは今年度のジュニア強化合宿では登坂、レース走ともに毎回抜群の力をみせ、カナダのネイションズカップでも区間5位に入った西村大輝、そして独走力では国内のジュニアでは頭一つ抜けている内野直也、そして3年以上フランスでレース生活を続けて、今年のカナダでのネイションズカップでは強力な逃げをみせ、厳しいコース設定のドイツのネイションズカップでも安定した走りを見せた清水太己の3選手。その中からTTには内野が参加した。

●個人タイムトライアル

TTはコペンハーゲンの中心地をスタートし1周13.9kmを2周回する27.8kmで行われた。周回前半は直線が多く力を出しやすいコースだが、後半からは段差そして石畳のあるコーナーなども多く、脚だけではなくバイクコントロールの差も大きくタイムに影響する。TTではバイクのUCI規則が今年は非常に厳格に適用され、どのチームもレース前のバイクチェックで変更を求められ大混乱。内野もバイクチェックが終了するまでの間、ノーマルロードバイクでウォーミングアップを入念に行う。

この日はコース前半が追い風、後半が向かい風になり、また横からの風を強く受ける箇所もある。内野は最初の6.7kmのチェックポイントでそれまで暫定トップタイムである選手から40秒遅れ、1周回終了時には1分46秒遅れ。2周目前半に1分後にスタートしたポーランドの選手が内野をパスするが、そこから内野は粘って離されずにゴール。

優勝は地元デンマークのWURTZ SCHMIDT MADSで35分7秒(47.483km/h)。内野はトップから3分52秒遅れ(42.769km/h)で52位。2周目中盤から片方のTTハンドルが動くといったアクシデントや、石畳で滑りやすいコーナーでのテクニックによる差もあるが、1周目、2周目の追い風の直線区間での他の選手とのラップタイムを比較しても、このタイム差は脚力の差によるところが大きい。国内ではTTを練習するコース探しが難しいが、環境がなければローラー台を



使って高い出力を維持する練習を行うこともできる。ジュニア2年目となる来年までに、今年の差をどこまで縮めることができるか、世界との力の差を今回しっかり把握して、今ある環境の中で練習に対する意識を大きく変えることを期待したい。

●個人ロードレース

ロードの日は曇り空で気温は14℃。1周14kmを9周する126kmのコース。ゴール前に6%ほどの登りが500mほどと、アウターギアで行ける登りがもう1箇所あるのみのほぼ平坦コースで、集団が流れるスピードレースが予想される。コース途中にはロータリーや道が狭くなる箇所、コーナー直後の登りなどもあり、速い展開の場合には集団後方の選手は脚を使わされる。この日はゴール前の直線部分の向かい風が、前日や試走した日よりも強く感じた。

選手には前日のミーティングで、他のカテゴリーとは異なり距離が短いので、レース前半から速い展開でレースが流れること、コーナーが多く狭い区間もあり落車が起きた際には、集団後方は脚を使い続けないと追いつけないので、可能な限り集団前方で動くことを確認。日本のレースで多くみられるような、集団に残ってさえいれば最後においしい思いができるレースとは異なり、前に前に行かねばいつの間にかグルペットに取り残されてしまう。選手らのレースへの意気込みは、内野はなんとか逃げに乗りたいた、西村は

ゴールの登りスプリントで力勝負したい、清水は展開をみて動き、登りゴールで結果を残したいというものであった。

170名が参加。スタート後すぐにフランス4名、デンマーク2名、ベルギー、イタリア、イギリス、ドイツ、ノルウェーらが12～13名の先頭集団を形成。予想通り前半から集団も速く流れていく。先頭集団からフランス、ベルギーがさらにアタックを決めて、レースは逃げ2名と大集団という形になり落ち着くが、30～40秒差を保ったまま集団のペースは落ちない。

6周目に一気に集団のペースが上がり、次の展開に備えた動きが集団でもみられたが、集団のかかなり前方にいた清水が最終コーナーの右側で起こった他の選手の落車のあおりを受け、左側のフェンスにぶつかりハンドルが大きく曲がってしまう。自分で直し再出走した清水は、ゴール前の登りを駆け上っていく。しかしこの補給所の登りで新たな落車が発生してニュートラルカーが数台停車しており、ブレーキをかけながら抜いていかねばならない状況になる。ラスト3周に入り集団のスピードも上がっており、結局追いつくことはできなかった。

8周目に20名強の先頭集団が出来、集団は前に前に選手が抜け出していくが、集団内の西村、内野ともにそこには入れない。先頭グループからさらに登り坂でフランス2名、ベルギー2名、オランダ2名の強力な逃げが

形成され、その後ろはまた一つの集団になる。大集団に人数を揃えるイタリア、デンマーク、ロシアらが追わねばならない展開になるが、この周に集団内で起こった大きな落車で、デンマークはエース選手らがメイン集団のさらに後ろに取り残されてしまい、集団を牽けない状況になる。ラスト1周で先頭6名とメイン集団は20秒ほどの差。先頭6名は同じ国の選手が2名ずつ入っているためチームTTのように協力体制がとれており、大集団も速いがなかなか差が縮まらない。さらに登り区間で優勝候補筆頭のフランスのPierre-Henri Lecuisinierが強力に先頭を牽いたため、先頭集団は崩れオランダ選手が1名脱落する。この攻撃で先頭グループでの力関係が明らかになるが、次の緩い下りで5名がまとまる。集団はイタリアがエーススプリンターNikolas Mariniのために集団を牽き続けるが、先頭集団もスピードを緩めず力比べ状態が続く。西村は集団を牽くイタリア列車のすぐ後ろあたりという、得意な登りスプリントに向けて良い位置を確保する。

先頭集団ではベルギーが攻撃を開始して単独で抜け出すが、フランスのもう1名がPierre-Henri Lecuisinierのために捨て身で先頭牽きしゴール前には追いつき、結局先頭グループでのスプリントでPierre-Henri Lecuisinierが他を全く寄せ付けず圧勝。メイン集団は最後3秒差まで迫ったが追いつかず、4名が逃げ切り。西村はメイン集団でゴールし54位。内野は最後バラバラになったメイン集団

から、タイム差を26秒つけられ97位。清水は13分遅れで141位。

ラスト周回後半まで良いポジションにつけていた西村だったが、ラスト数kmで発生した落車で急停車して脚をつくことになり、ポジションを失うだけではなく脚が攣ってしまう。そこから粘ってメイン集団でゴールできたのは評価できるが、レース全体を通して集団前方に出たり後方に下がったりと、集団内での位置取り争いで大きく脚を使っていた。世界選レベルの集団密度の高いレースの参加は今回が初めてであり、ジュニア2年目となる来年は世界選前にヨーロッパのレースを走り、密度の高い集団走行に慣れて、集団内で脚を使う場面を減らし勝負処まで力をためることが出来れば、世界選でも勝負の場面に残ることが出来ると思う。

内野もやはり初めての本場のレースの集団密度・スピードに戸惑い、3時間のレースで消費したボトルは1本未満であった。抜かしどころが少ないコースで集団後方から上がることが出来ずレースを終えたが、まだ西村と同じくジュニア1年目であり、国内では実業団レースで戦う環境の中で、これからの1年で何をしなければならぬか自分の肌で感じる事が出来たと思う。

清水は落車に引かかるまで、常に集団前方に位置して集中して走っていただけに、残念な結果に終わった。ドイツのネイションズカップに続いてこの世界選でも、集団内での位置取りなど3年以上のシーズンをヨーロッパで走り続けてきた経験の大きさを感じ

じた。ゴール後は人目もはばからず悔しさを滲ませていたが、この悔しさはU23のカテゴリーでさらにパワーアップして晴らしてもらいたい。

優勝したフランスのPierre-Henri Lecuisinierは今年のジュニアロードヨーロッパチャンピオンで、日本チームも参加した8月のTrofeo Karlsbergではステージ2勝(TT含む)と、個人総合優勝とどの国もマークする優勝候補の最有力選手であった。

今年からエリートと開催場所や時期が同じになり、ジュニア選手はレースだけではなく世界のトップカテゴリーで走る宮澤、別府、新城、萩原らと一緒に練習、食事を摂ることができ、そこから多くのものを学ぶことができた。レース、練習だけではなく普段の生活、食事、休息といったものの重要性も強く認識して、1年後に成長した姿を見せてほしい。

そして今年からレース2日前に、ジュニア選手の全員参加が義務付けされたジュニアコンフェレンスというイベントが催され、レース映像を観たり自転車選手の生活、ドーピング問題に関してなどフィリップ・ジルベールらも交えての質疑応答等が行われた。選手としての心構えなど世界トップ選手からのアドバイスもあり、あっという間の2時間半であった。このような催しは基本的にはフランス語、英語で行われるので、世界を目指す選手にとっては自転車の練習と同時に、語学習得にも意識を向けてもらいたい。

柿木孝之(JCFジュニア強化育成部会員)

伊藤超短波の製品が 日本を代表する選手たちを支えています。

最高のコンディションを保ち、ケガからはより早く回復すること。
医療の分野だけではなく、様々なスポーツの現場で、選手のサポートに
伊藤超短波の治療器が活躍しています。



AT-mini

AT ミニ ポータブル 低周波治療器

低周波治療器
管理医療機器 (特定保守管理医療機器)
医療機器認証番号 220AABZX00344A01

※本医療機器は専門家の指導のもとにご使用ください

50g

超軽量

12時間

連続使用

3 COMB / PAIN / CARE

3つの治療モード

鎮痛・治療

- COMB (鎮痛+治療) ALLタイムケア：トレーニングを終えた全てのアスリートに効果的。
- PAIN (鎮痛) ONタイムケア：トレーニング中など、現場で起こった急なアクシデントに。
- CARE (治療) OFFタイムケア：移動中や休憩中などの体を休めている時に。

製造
販売元



伊藤超短波株式会社

東京都練馬区豊玉南3-3-3

www.itolator.co.jp

メディカル事業部

本社：〒113-0001 東京都文京区白山1-23-15

TEL. 03(3812)1216(代)・FAX. 03(3814)4587

第46回全国都道府県対抗自転車競技大会

KEIRIN 
この大会は競輪の補助金を受けて実施されました



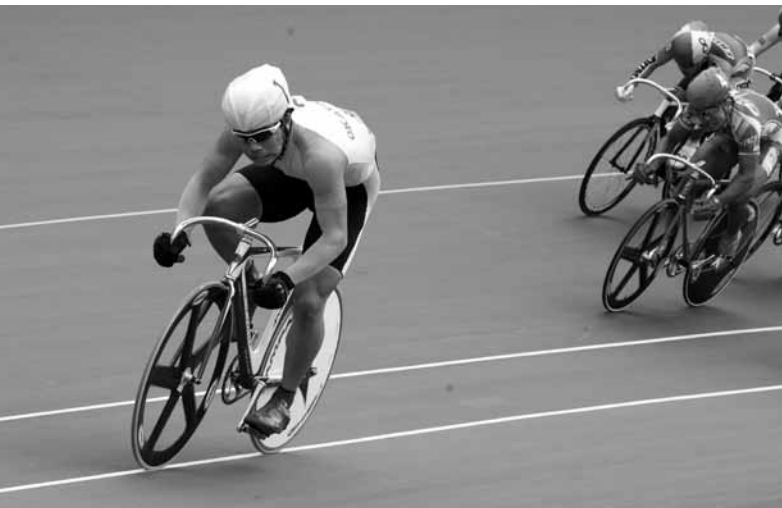
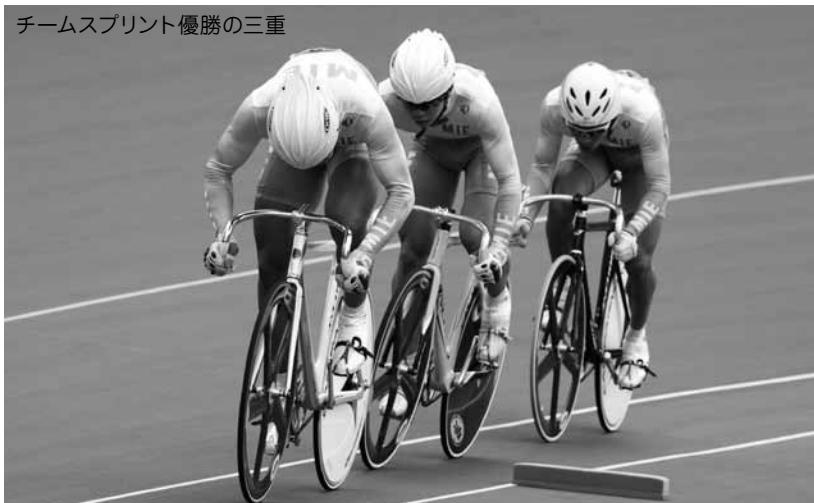
団体追抜競走、大会新記録で優勝した岐阜

9月8日から10日、第46回全国都道府県対抗自転車競技大会が来年「2012ぎふ清流国体」を開催する予定の岐阜県で開催された。

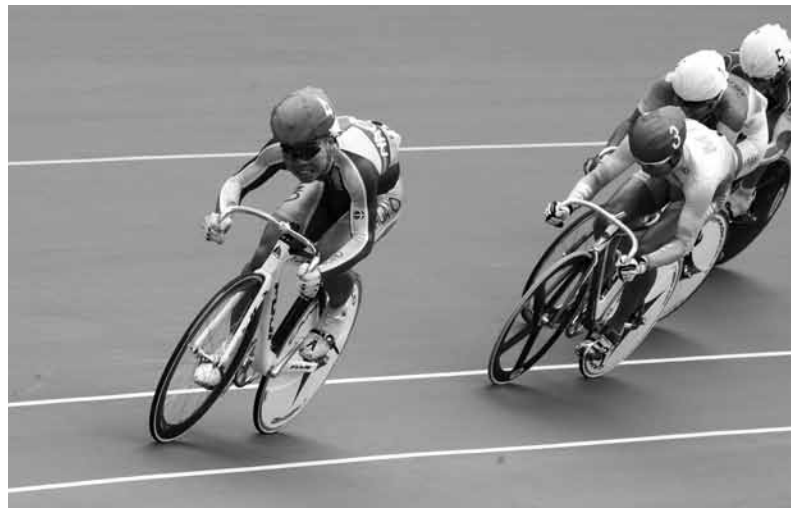
8日・9日の2日間は岐阜競輪場でトラックレースが、最終日はツアーオブジャパンでお馴染みのコースでロードレースが行われた。

都道府県対抗を競う男子は、団体追抜競走で大会新記録をだした岐阜県が総合優勝、女子は石井寛子のトラック2冠とロード3位で、茨城県が総合優勝を果たした。

チームスプリント優勝の三重



少年男子ケイリン優勝の奥村



成年男子ケイリン優勝の赤澤

成年男子ポイントレース優勝の榊原（先頭）



女子ポイントレース、左から1位石井、2位明珍、3位中村



男子個人ロード優勝の中根

【競技結果】

第46回全国都道府県対抗自転車競技大会
(2011/9/8-10 岐阜・岐阜/美濃)

男子スプリント

- 1 橋本 瑠偉 佐 賀
- 2 小林 郁弥 鹿 児 島
- 3 大久保光次 山 口

成年男子1kmタイムトライアル

- | | |
|-------------|----------|
| 1 池野 健太 兵 庫 | 1:08.258 |
| 2 加藤 良治 岐 阜 | 1:09.260 |
| 3 沼田 明久 山 梨 | 1:09.979 |

少年男子1kmタイムトライアル

- | | |
|-------------|----------|
| 1 谷口 遼平 三 重 | 1:08.224 |
| 2 伊藤 邦和 東 京 | 1:08.319 |
| 3 森田賢多郎 佐 賀 | 1:09.594 |

成年男子ケリソ

- 1 赤澤 健 長 野
- 2 松本 諒太 三 重
- 3 和田 拓磨 茨 城

少年男子ケリソ

- 1 奥村 諭志 岡 山
- 2 清水 裕友 山 口
- 3 長尾 拳太 岐 阜

成年男子ポイントレース(30km)

- | | |
|---------------|-----|
| 1 榊原 健一 愛 知 | 55p |
| 2 高宮 正嗣 鹿 児 島 | 46p |
| 3 小村 知之 青 森 | 42p |

少年男子ポイントレース(24km)

- | | |
|-------------|-----|
| 1 橋本 英也 岐 阜 | 54p |
| 2 小林 泰正 群 馬 | 35p |
| 3 高士 拓也 三 重 | 17p |

男子チームスプリント

- | | |
|----------------|----------|
| 1 三 重 廣田・高士・谷口 | 1:18.322 |
| 2 岡 山 奥村・多田・畝木 | 1:18.473 |
| 3 大 分 後藤・一丸・黒枝 | 1:19.804 |

男子4km団体追抜競走

- | | |
|------------------|----------|
| 1 岐阜 高橋・矢野・加藤・橋本 | 4:29.578 |
| 2 愛知 榊原・木村・中根・山本 | 4:36.372 |
| 3 京都 徳田・辻・田中・中野 | 4:39.561 |

男子個人ロードレース(85.2km)

- | | |
|-------------------|---------|
| 1 中根 英登 愛知 中京大学 | 2:00:36 |
| 2 山下 貴宏 兵庫 マトリックス | 2:00:49 |
| 3 真鍋 和幸 香川 マトリックス | 2:00:54 |

女子500mタイムトライアル

- | | |
|-------------|--------|
| 1 石井 寛子 茨 城 | 37.959 |
| 2 沼部早紀子 静 岡 | 38.494 |
| 3 三宅 愛梨 岡 山 | 39.122 |

女子ポイントレース(16km)

- | | |
|-------------|-----|
| 1 石井 寛子 茨 城 | 21p |
| 2 明珍 裕子 岐 阜 | 16p |
| 3 中村 友香 奈 良 | 12p |

女子個人ロードレース(42.6km)

- | | |
|------------------|---------|
| 1 福本 千佳 大阪 同志社大学 | 1:04:36 |
| 2 明珍 裕子 岐阜 朝日大学 | 1:04:38 |
| 3 石井 寛子 茨城 スパーク | 1:04:46 |

男子総合成績

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 岐阜 49p | 2 三重 45p | 3 愛知 40p |
|----------|----------|----------|

女子総合成績

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1 茨城 14p | 2 鹿児島 22p | 3 岐阜 20p |
|----------|-----------|----------|

第 67 回全日本大学対抗選手権自転車競技大会

文部科学大臣杯、日大が 29 連覇!



女子 500mTT 優勝の前田



男子ポイントレース、先頭が優勝の榊原

9月1日から4日、文部科学大臣杯第67回全日本大学対抗自転車競技選手権大会が長野県松本市のかりがね自転車競技場でトラックレース、大田市美麻地区でロードレースが開催された。

トラックレースでは、大会新記録・学連新記録が続出したが、ロードレースは台風の影響で荒天のなか争われた。

注目の大学対抗文部科学大臣杯は、日本大学が連覇を29に延ばした。



男子ロードレース優勝の早川



雨の中の女子ロードスタート、先頭が優勝の上野



男子4km個人追抜優勝の窪木



男子ケイリン決勝、左から1位末木、3位今井、2位新納

29 連覇
日本大学の
ゴールド
メダリスト達

男子スプリント1位の古庄(左)と2位の新納



男子1kmTT優勝の末木

【競技結果】

文部科学大臣杯 第67回
全日本大学対抗選手権自転車競技大会
(2011/9/1-4 長野・松本/大町)

男子スプリント

- 1 古庄 豊全 熊本 日本大学
- 2 新納 大輝 鹿児島 鹿屋体育大学
- 3 橋本 凌甫 東京 日本大学

男子1kmタイムトライアル

- 1 末木 浩二 山梨 日本大学 1:05.320
- 2 元砂 勇雪 奈良 鹿屋体育 1:06.357
- 3 野口 大誠 熊本 中央大学 1:06.388

男子ケイリン

- 1 末木 浩二 山梨 日本大学
- 2 新納 大輝 鹿児島 鹿屋体育大学
- 3 今井 一誠 東京 早稲田大学

男子4km個人追抜競走

- 1 窪木 一茂 福島 日本大学 4:51.319
- 2 佐々木 龍 神奈川 早稲田大 4:59.916
- 3 矢野 智哉 岐阜 朝日大学 4:49.221

男子ポイントレース(40km)

- 1 榊原 健一 愛知 中京大学 29p
- 2 長瀬 幸治 埼玉 鹿屋体育大学 26p
- 3 倉林 巧和 群馬 日本体育大学 25p

男子タデムスプリント

- 1 早稲田大学 佐々木・今井
- 2 順天堂大学 石田・飯塚
- 3 朝日大学 松本・沼田

男子チームスプリント

- 1 日本大学 古庄・末木・橋本 1:04.293
- 2 中央大学 野口・池野・藤森 1:05.569
- 3 順天堂大学 石田・加藤・飯塚 1:04.526

男子4km団体追抜競走

- 1 鹿屋体大 高宮・野口・山本・長瀬 4:24.593
- 2 早稲田大 入部・佐々木・大中・三浦 4:28.945
- 3 朝日大学 河合・今西・谷岡・矢野 4:33.107

男子ロードレース

- 1 早川 朋宏 愛知 法政大学 4:26:03
- 2 木村 圭佑 滋賀 京都産業大 4:26:25
- 3 堀内 俊介 神奈川 中央大 4:26:33

女子500mタイムトライアル

- 1 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大 35.810
- 2 小島 蓉子 千葉 日本体育大 38.643
- 3 丸田 京 東京 法政大学 38.713

女子スプリント

- 1 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大学
- 2 小島 蓉子 千葉 日本体育大学
- 3 廣本 茜梨 大分 環太平洋大学

女子3km個人追抜競走

- 1 上野みなみ 青森 鹿屋体育大3:57.779
- 2 塚越さくら 鹿児島 鹿屋体育大4:00.552
- 3 田中 まい 千葉 日本体育大3:57.697

女子ポイントレース(16km)

- 1 上野みなみ 青森 鹿屋体育大学 36p
- 2 田中 まい 千葉 日本体育大学 16p
- 3 近藤 美子 愛知 鹿屋体育大学 14p

女子チームスプリント

- 1 鹿屋体育大学 近藤・前田 48.511
- 2 日本体育大学 古河・小島 55.930
- 3 法政大学 濱田・丸田 50.045

女子ロードレース

- 1 上野みなみ 青森 鹿屋体育大 1:35:15
- 2 明珍 裕子 岐阜 朝日大学 1:35:44
- 3 田中 まい 千葉 日本体育大 1:35:59

男子対抗得点総合順位

- 1 日本大学 74p
- 2 鹿屋体育大学 53p
- 3 中央大学 47p

女子対抗得点総合順位

- 1 鹿屋体育大学 62p
- 2 日本体育大学 38p
- 3 朝日大学 16p

2011年MTB世界選手権大会

XCO 山本幸平が23位、DHI 末政が6位!



<チームリレー>

スイスチャンペリーで開催された2011年マウンテンバイク世界選手権、最初の種目はXCチームリレー。エリート男女、U23、ジュニアの4人が1周ずつの交代で走り、順位を競う。

1走は山本幸平、好位置からのスタートでトップから1分遅れの11位で2走の沢田時へバトン。沢田も好走し、順位は11位のまま3走の片山梨絵へ。片山は落車の影響もあってか、16位に順位を落として4走の野田拓司にバトン。野田も落車をしたが最後まで走り切り、19位でフィニッシュとなった。

来年のロンドン五輪を目前に、各国は国を挙げ強化をしてきている事が分かった。特定のクラスだけではなく、総合的な底上げをしている。

日本選手は体調も良く、怪我も無く順調に本戦に向け仕上げに入っている。

<男子ジュニアXCO>

ジュニア男子XCはスタートループ+4周で行われた。日本からは沢田がエントリー。3列目という好位置でスタートを切った。

地元スイスや隣国フランス勢が序盤からペースを上げ、ルーズな路面コンディションにも係わらずハイペースなラップを刻み続ける。沢田は苦戦しながらも60位台を走行。転倒もあったが順位を下げる事無く、逆に後半に順位を上げ始め、序盤と変わらないペースで最後まで走り切り54位でフィニッシュ。

■沢田のコメント

「スタートが物凄く速くて、後ろから来るライダーに飲まれてしまった。もっとパワーを付け最初から全力で行けるスピードを付けて来年は挑みたい」

<男子U23XCO>

夜中に小雨が降ったものの、コースは乾きつつあり、天候も晴れて日向では暑いくらい。

男子クロスカントリー U23に日本から野田が参加。初めての世界選手権で緊張をしていたものの、先輩ライダーからの的確なアドバイスを受け無事にスタートラインに立った。

スタートループ+6週のレースは序盤からスイスが先頭でハイペースを刻んで行ったが、野田は出遅れる形と

なってしまう、2周目には先頭と10分もの差になってしまう。その後も大きくペースを落とす事無く走り続けたが、先頭の驚異的なハイペースによって80%タイムカットとなり-3 lapで75位の結果となった。ジュニアと同じくスタート後のスピードが課題だ。

■野田のコメント

「スタートの出遅れを挽回しようと焦って落車、また挽回しようと焦って落車を繰り返してしまった。回りのスピードが速くても、心身ともに対応できるようにトレーニングを積んで、来年も挑戦したい。」

<男女エリートXCO>

大会4日目はクロスカントリーエリート男女決勝が行われた。

天候は曇りで路面は回復し、ドライに近い状況で女子がスタート。スタートループ+6週のレースで片山は、スタートで後方に下がりそれを挽回しようとペースを上げた際に落車をしてしまい機材トラブルが発生。身体にダメージは無く直に走りだし、徐々にポジションを上げ後半もしっかりとバイクを進ませて28位でフィニッシュ。

男子はスタートループ+7周。スタート後に山本幸平が10位ほどの好位置で登りに入っていく、徐々にポジションを下げるものの20番台で周回をこなした。最終周で追い上げを見せ日本人過去最高位の23位でフィニッシュ。トップとのタイム差は8分24秒。

小野寺健、山本和弘、平野星矢はスタート後のポジション取りで苦戦し、シングルトラック入口の渋滞で更にタイムロスをしてしまい、小野寺が-2 lapの69位、山本和が-3 lapの77位、平野が-3 lapの79位となった。

■山本幸平のコメント

「100%の力を出し切れた。もう少し上の順位を狙っていたが届かなかった。しかし課題が見えたので、来年には克服して世界で勝負したい」

<男女エリートDHI>

ダウンヒルのタイムセッション。男子の清水一輝は機材トラブルを乗り越えての出走だったが、ゴール後は酸欠になるほどに追い込んで走り74位。女子の末政実緒は世界レベルの走りを披露し6位。本人はまだ余裕があるので、決勝では全力で行くと頼もし



DHI 6位の末政

い言葉。

マウンテンバイク世界選手権最終日のダウンヒル決勝。明け方には雨も上がっていたが路面はマッド。しかも昼前から雨が降り出し、時には強い雨脚。朝の試走で末政は好調さを見せ、清水もコロコロ変わるコンディションに対応していた。

1.6kmの距離で標高差600mを落ちるように下るハードなレイアウト。末政は転倒があったものの集中力を切らす事無くゴールし、その時点で暫定2位。その後は後続のライダーにタイムを抜かれるものの6位。世界選手権での6位は誇れる結果だが、来年こそは表彰台に立たせたい。

■末政のコメント

「ワールドカップでは良い成績が出ておらず世界選も心配していたが、6位という結果が出てまだ世界で通用するという自信が持てた。来年は更に上を目指したい」

男子の清水が走る頃には雨がますます強くなり、転倒者が続出。ヘリでの緊急搬送も多くあり清水も緊張していたが、集中力を高めてスタート。大きなミスや転倒も無くゴール。37位という近年にはない良いリザルトを残した。

■清水のコメント

「世界選という事で緊張もしていたが、しっかりと準備をして挑んだので、普段通りの走りが出来た。もっと経験を積んで、更に順位を上げていきたい」

ダウンヒルをもって2011年マウンテンバイク世界選手権の全日程を終了した。個人のレベルアップは着実に進んでいるが、日本の総合的なレベルアップはこれからだと感じた。選手もスタッフも1日1日を大切に、次世代に繋がる強化をしていきたい。

(MTB監督 小笠原 崇裕)

※競技結果は13ページをご参照下さい

2011年パラサイクリングロード世界選手権大会

C3クラスの藤田が6位!

9月6日 曇り時々雨

ホテルより30km離れたコースへレンタカーにて移動。レース会場で自転車を組みコースを試走。1周15,37kmのコースをコーナーやロータリーなどを確認しながら、ゆっくりと2周回試走した。

コースは、風が大変強く、また、細い下りコーナー等があり、障害の重いクラスにとっては非常に危険なコースである。我々の目の前でもトライシクルの選手が練習中に落車し、ケガを負っていた。今回のコースのポイントは、コースの位置取りが大切であると感じた。

9月7日 曇り

午前中、石井と藤田はコースを3周、奥村は2周試走し、明日のロードタイムトライアルへ備える。スタッフは、ライセンスチェック、マネージャーミーティング、自転車の整備・洗車。

9月8日 曇り

10時からスタートのC3クラスに藤田が出走。今回義足のプレートの位置を変更するなど試行錯誤中ではあるが、体調、精神的にはよい状態である。

スタート直後より強い風の中順調に走る。途中1分後にスタートしたニュージーランドの選手に抜かれたが課題であった登りでのダンシングはスムーズに行えた。結果は13位

続いて13時30分からスタートのH3クラスに奥村が出走。

同じくスタート直後より強い風の中を走行。細い下りコーナーも難なくクリアしながら順調にコースを進む。途中、小さな登りで新しく変えた変速機がトラブルを起こしたがすぐに直り、若干のロスで済んだ。今ある力をすべて出し切り走りきることができた。結果は15位。

9月9日 曇り

10時からスタートのC4クラスに石井が出走。イタリアの事故から2年。少しずつ調子を上げてきているが、まだまだ2年前には遠い感じがする。現在のC4クラスはトップ選手のほとんどが各国のエリートクラスで走っており、なかなか入賞することが難しくなっている。その強豪の中、石井がスタート。昨日よりは弱いが風はある。

スタート直後、石井の後ろについた別のクラスの選手を、1分後にスタート



した同じクラスの選手と勘違いし、少し慌ててしまう。その後順調に走ってはいるが、トップスピードに乗らないままゴール。落車前の走りを知っているだけに、早い復活を期待したい。結果は14位。

9月10日 晴れ

10時からスタートのH3クラスに奥村が出走。スタート直後、中央分離帯の段差に乗り上げ、チェーンが外れるアクシデントで集団より遅れ、追いつくだけで体力を消耗してしまう。そのため、1周目より集団から遅れた。同じ順位を維持し、18位でゴール。やはり、コースの位置取りがうまくいかず、残念な結果になった。

続いて、16時からスタートのC3クラスに藤田が出走。

1周目の途中で大きな落車があったが、藤田は大丈夫であった。その後も何度か落車があったが、うまく切り抜けた。原因は、クラス統合により出走している脳性まひのクラスの選手がふらついて、大変危険な走りになっていたためだという。集団の中では落ち着いて走っていたが、自分から動くことはできず、他国の選手の動きに併せるしかなかった。

ゴール前のロータリー（ゴール前350m）で、インコースを抜けた選手たちが先行し順位を上げた。藤田は外側からゴールを目指したが、トップには届かず6位となった。しかし、近年スピード化が進むこのクラスにおいて、6位は大変すばらしい成績だと思う。

総評

藤田の6位が最高ではあるが、今の

日本チームの状況がそのまま反映された結果であった。各国の選手は、ほとんどがプロのような生活を送っているが、日本チームは皆働きながらトレーニングをしているという理由には確かにある。しかし、これは何の言い訳にもならない。少しの時間でより効率の良いトレーニングができる環境を作り、今後につなげないといけない。この大きな溝を日本チーム全員で埋めていきたい。（パラ強化スタッフ 権丈 泰巴）

【競技結果】

2011年パラサイクリングロード世界選手権大会 (2011/9/8-11 デンマーク・ロズビ)

男子 C3 ロードタイムトライアル (15.2km)

- 1 NICHOLAS David AUS 21:28.996
- 2 GUTIERREZ BERENGUEL Juan Emilio ESP 21:38.214
- 3 MC KEOWN Shaun GBR 21:43.410
- 13 藤田 征樹 JPN チームフェアロ 23:32.175

男子 H3 ロードタイムトライアル (15.2km)

- 1 JEANNOT Joel FRA 23:14.51
- 2 MERKLEIN Vico GER 23:29.24
- 3 CRATASSA Mauro ITA 23:41.73
- 15 奥村 直彦 JPN 風輪道 27:59.71

男子 C4 ロードタイムトライアル (30.6km)

- 1 NOVAK Carol-Eduard ROU 40:29.17
- 2 JEZEK Jiri CZE 41:40.42
- 3 BOUSKA Jiri CZE 42:08.78
- 14 石井 雅史 JPN チームスキップ 45:32.59

男子 H3 ロードレース (61.5km)

- 1 JEANNOT Joel FRA 1:41:09
- 2 SKRZYPINSKI Arkadiusz POL 1:41:09
- 3 LEDO Mark CAN 1:41:09
- 18 奥村 直彦 JPN 風輪道 2:01:07

男子 C3 ロードレース (61.5km)

- 1 BOSMANS Kris BEL 1:36:03
- 2 NICHOLAS David AUS 1:36:03
- 3 BARGNA Roberto ITA 1:36:03
- 6 藤田 征樹 JPN チームフェアロ 1:36:04

ACCトラック・アジアカップ 2011 タイラウンド

雨で大きくスケジュールが変わる

今回のACCトラック・アジアカップ2011は、タイ王国バンコクの屋外コンクリート、周長333.3mのトラック、参加13ヶ国で開催された。この時期、バンコクは雨季で雨が多く、開催に大きく影響が出る大会となった。

日本からは、男子中距離の窪木、女子中距離の加瀬、上野、女子短距離の渡辺、前田の5選手が出場し、特に今大会は女子選手の世界選出場のポイントを獲得する重要な大会であるため、少しでも上の順位でポイントを獲得することを目標とした。

1日目は朝から雨模様で、開始時間が大幅に遅れ、唯一ジュニア、エリートの個人追い抜き一発決勝のみが行われ、後の種目は中止となった。日本選手の出場はなかったが、選手はいつまでもいいようにコンディションを何回も作り、長い時間待たされた中、緊張感を保っていた。

2日目はスケジュールが大幅に変更され、世界選とオリンピック重視の種目になり、タイム系の種目は予選なしの一発決勝となった。

スプリントに出場した渡辺と前田は、予選タイムで3位、4位となり1/2決勝に共に進み、本戦では2人とも頑張ったが、あと少し力が及ばず敗れた。3位-4位決定戦は、雨天の為中止になり、2人とも3位という結果になった。

チームスプリントは、1走渡辺、2走前田で日本新記録を目標に臨み、不利

な風の影響を考えてみれば、1位と0.3秒差だったのは、大健闘だったと思う。特に渡辺は競技歴もなく初めての大会出場であったが、競技経験を積んでいけば今後の活躍が楽しみである。

また、女子短距離選手に関しては、女子競輪が始まる事に伴い強化が本格的に行われてきているので、今後に期待したい。チームスプリントの結果は2位49秒278であった。

オムニウムに出場した窪木、加瀬、上野は、雨の影響でフライング200m、3km個抜、スクラッチの3種目しか出来ず、その時点での点数で順位をつける事になり、その結果女子では加瀬が優勝、男子は窪木が3位、上野が4位となった。特に加瀬は3km個抜で1位を取り、スクラッチでは上野の好アシストもあり、積極的なレースで2位となり、その走りが優勝という結果につながった。

今大会は、雨の影響で出場種目が少なくなったが、その中で日本の女子選手はUCIのポイント獲得に大きく貢献し、目標を達成することができたものと思う。(ナショナルコーチ 坂本 勉)

【競技結果】

ACCトラック・アジアカップ 2011 タイラウンド (2011/9/10-11 タイ・バンコク)

男子スプリント

1	RYU Jae Yeol	KOR
1	Zaid M. Fattah Amri	MAS
3	KHADEMI Ehsan	IRI
3	KIM Hee Jun	KOR

男子チームスプリント

1	Korea	1:04.164
2	Iran	1:06.224
3	Malaysia	1:06.528

男子4km 個人追抜競走

1	TUYCHIEV Vladimir	UZB	4:49.251
2	IM Jaeyeon	KOR	4:49.457
3	KUPESHOV Berik	KAZ	4:56.146

男子4km 団体追抜競走

1	Korea	4:32.711
2	Chinese Taipei	4:33.793
3	Kazakhstan	4:37.276

男子1km

1	IM Jaeyeon	KOR	7
2	WU Po Hung	Chinese TPE	8
3	窪木 一茂	福島 日本大学	14

女子スプリント

1	LEE Wai Sze	HKG
1	HUANG Ting Ying	TPE
3	前田佳代乃	鹿児島 鹿屋体育大学
3	渡辺ゆかり	山梨 日本競輪学校

女子チームスプリント

1	Hong Kong	48.906
2	日本 前田・渡辺	49.278
3	Chinese Taipei	50.178

女子3km 団体追抜競走

1	Chinese Taipei	3:54.659
2	Hong Kong	3:56.472
3	Thailand	3:58.124

女子3km 個人追抜競走

1	WONG Wan Yiu Jamie	HKG	4:04.622
2	I Fang Ju	TPE	4:05.985
3	YAP FUI LI Kimberley	MAS	4:08.821

女子1km

1	加瀬加奈子	新潟 日本競輪学校	6
2	HSIAO Mei Yu	TPE	8
3	DIAO Xiao Juan	HKG	12
4	上野みなみ	青森 鹿屋体育大学	14

日本の空で会いましょう。

Dream Skyward. **JAL**



世界の空でお会いしましょう。

www.jal.co.jp

one world member

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

第13回全日本学生選手権ケリカ大会 (2011/8/21 滋賀・東近江)

男子 (42.0 km)

1	黒枝 士揮	大分 鹿屋体育大学	37p
2	入部 正太郎	奈良 早稲田大学	27p
3	榊原 健一	愛知 中央大学	20p

女子 (14.7km)

1	木村 亜美	鹿児島 鹿屋体大	23:46.80
2	岩田 知夏	京都 立命館大	23:46.97
3	合田 祐美子	岡山 早稲田大	23:47.54

2011年MTB世界選手権大会 (2011/8/31-9/4 スイス・シャバリー)

XC 男子 (18.7km)

1	フランス	54:04
2	スイス	54:45
3	イタリア	54:58
19	日本 山本幸・沢田・片山・野田	1:00:26

XCO 男子ジュニア (22.2km)

1	KORETZKY Victor	FRA	1:07:18
2	COOPER Anton	NZL	+1:18
3	FONSECA Andrey	CRC	+1:19
54	沢田 時	滋賀 HARO	+12:04

XCO 男子 U23 (31.8km)

1	LITSCHER Thomas	SUI	1:32:30
2	KONWA Marek	POL	+1:42
3	MOORLAG Henk Jaap	NED	+2:13
75	野田 拓司 佐賀 久留米大学		-3laps

XCO 男子 U23 (36.6km)

1	KULHAVY Jaroslav	CZE	1:44:30
2	SCHURTER Nino	SUI	+0:47
3	ABSALON Julien	FRA	+1:26
23	山本 幸平	北海道 プリヂェンストーンカー	
69	小野寺 健	北海道 スパシヤライズト	-2laps
77	山本 和弘	北海道 キヤンテール	-3laps
79	平野 星矢	長野 プリヂェンストーンカー	-3laps

XCO 女子 U23 (31.8km)

1	PENDREL Catharine	CAN	1:46:14
2	WLOSZCZOWSKA Maja	POL	+0:28
3	LECHNER Eva	ITA	+1:36
28	片山 梨絵	神奈川 スパシヤライズト	+11:51

DHI 女子 U23 (1.6km)

1	RAGOT Emmeline	FRA	4:54.012
2	ATHERTON Rachel	GBR	5:09.303
3	BUCHAR Claire	CAN	5:21.965
6	末政 実緒	兵庫 Funfancy	5:31.735

DHI 男子 U23 (1.6km)

1	HART Danny	GBR	3:41.989
2	SPAGNOLO Damien	FRA	3:53.688
3	BLINKINSOP Samuel	NZL	3:54.982
37	清水 一輝	愛知 アキファクトリー	4:25.302

2011年トライアル世界選手権大会 (2011/8/31-9/04 スイス・シャバリー)

男子 U23 (20 インの部)

1	ROS CHARRAL Benito Jose	ESP	16
---	-------------------------	-----	----

2	MUSTIELES GARCIA Abel	ESP	19
3	COUSTELLIER Gilles	FRA	38
18	飯塚 隆太	東京 GOLDRUSH	60

第3回全日本選手権・レースinいわて (2011/9/2-4 岩手・八幡平)

<女子>

個人総合成績

1	西 加南子	JCF チーム	4:35:16
2	森本 朱美	JCF チーム	4:35:22
3	井上 玲美	JCF チーム	4:39:40

団体総合成績

1	JCF チーム	9:11:24
2	全国高体連選抜	9:33:36
3	札選抜 A チーム	10:35:58

第1ステージ (3.3km)

1	井上 玲美	JCF チーム	7:32.01
2	齋藤 望	全国高体連選抜	7:38.22
3	森本 朱美	JCF チーム	7:39.85

第2ステージ (24km)

1	西 加南子	JCF チーム	49:57
2	森本 朱美	JCF チーム	49:57
3	齋藤 望	全国高体連選抜	51:14

第3ステージ (62.4km)

1	西 加南子	JCF チーム	2:06:33
2	森本 朱美	JCF チーム	2:06:38
3	井上 玲美	JCF チーム	2:06:50

第4ステージ (46.9km)

1	森本 朱美	JCF チーム	1:31:34
2	西 加南子	JCF チーム	1:31:34
3	井上 玲美	JCF チーム	1:34:12

<男子>

個人総合成績

1	徳田 優	京都 北桑田高校	7:06:14
2	西村 大輝	関東 高体連選抜	7:07:13
3	広瀬 樹	神奈川 高体連選抜	7:09:23

団体総合成績

1	京都府北桑田高校	21:32:03
2	和歌山県和歌山北高校	21:35:20
3	関東高体連選抜	21:35:58

第1ステージ (3.3km)

1	徳田 優	京都北桑田高校	6:12.14
2	西村 大輝	関東高体連選抜	6:23.58
3	広瀬 樹	神奈川高体連選抜	6:24.36

第2ステージ (36km)

1	西村 大輝	関東高体連選抜	1:05:07
2	徳田 優	京都北桑田高校	1:05:07
3	宮内 渉	四国高体連選抜	1:07:04

第3ステージ (108.9km)

1	徳田 優	京都北桑田高校	3:11:54
2	菊山 将志	関東高体連選抜	3:11:59
3	安田 京介	京都北桑田高校	3:12:01

第4ステージ (93.4km)

1	横山 航太	北信越高体連選抜	2:42:39
2	広瀬 樹	神奈川高体連選抜	2:43:13
3	城田 大和	九州高体連選抜B	2:43:15

第42回JBCF全日本トラックチャンピオンシップ (2011/9/3-4 大阪・関西 CSC 400m)

男子スプリント

1	稲川 翔	ハロチスタ・アヴェル
2	伊藤 成紀	ハロチスタ・アヴェル

3	梅實 勇作	ハロチスタ・アヴェル
---	-------	------------

男子 1km タイムトライアル

1	大屋 健司	ハロチスタ・アヴェル	1:07.702
2	大村 慶二	Hachioji C.P.	1:09.484
3	柁原 翔太	湘南愛輪会	1:09.808

男子ケリッ

1	佐野 伸弥	MINOURA 大垣レーシング
2	矢野 賢児	マリコールト T.T パントラ
3	紅谷 晃二	マリコールト T.T パントラ

男子 4km 個人追抜競走

1	大屋 健司	ハロチスタ・アヴェル	4:52.847
2	矢野 賢児	マリコールト T.T	4:53.227
3	山本 貴洋	MUUR ZERO	4:59.727

男子スクラッチ (8km)

1	山地 大介	マリコールト T.T パントラ
2	山下 貴宏	マトリックスワークス
3	山本 貴洋	MUUR ZERO

男子ポイントレース (30km)

1	山下 貴宏	マトリックスワークス	113p
2	安原 大貴	マトリックスワークス	106p
3	山田 哲治	マリコールト T.T	83p

男子チームスプリント

1	ハロチスタ・アヴェル	大屋・稲川・伊藤	1:17.503
2	湘南愛輪会	柁原・亀谷・亀山	1:20.564
3	岩井商会 R.	辻本・河崎・長瀬	1:24.464

男子 4km 団体追抜競走

1	マトリックス PT	山下・安原・満本・向川	4:40.488
2	Hachioji CP	阿部・山崎・善波・大村	4:59.262

女子 500m タイムトライアル

1	吉川 美穂	サイクルハースあさひ	39.616
2	濱田 真子	湘南愛輪会	41.068
3	和田 里沙	湘南愛輪会	41.669

女子 3km 個人追抜競走

1	吉川 美穂	サイクルハースあさひ	4:12.153
2	濱田 真子	湘南愛輪会	4:14.732
3	大塚 沙織	湘南ハルマレークラブ	4:15.743

ツール・ド・北海道 2011

(2011/9/16-19 北海道・道東～道央)

個人総合時間賞

1	RUBIANO CHAVEZ Miguel Angel	ARG	13:56:47
2	JANG Kyung Gu	KOR	13:56:50
3	CAMPAGNARO Simone	ITA	13:57:09

ポイント賞

1	RICHEZE Maximiliano	ARG	49p
---	---------------------	-----	-----

山岳賞

1	RUBIANO CHAVEZ Miguel Angel	COL	20p
---	-----------------------------	-----	-----

チーム順位

1	ダンジエロ & アンテヌッチイ	-NIPPO	41:51:20
2	シムレーシング		42:01:01
3	マトリックスワークス		42:04:30

第1ステージ (198km) 帯広市～標茶町

1	西園 良太	JPN シムレーシング	4:35:48
2	畑中 勇介	JPN シムレーシング	4:35:48
3	JANG Kyung Gu	KOR	4:35:53

第2ステージ (208.6km) 弟子屈町～鹿追町

1	山下 貴宏	JPN マトリックス PT	5:20:38
2	狩野 智也	JPN プリヂェンストーン	5:20:38
3	山本 元喜	JPN 鹿屋体育大	5:20:38

第3ステージ (168.5km) 占冠村～江別市

1	佐野 淳哉	JPN ダンジエロ	3:56:40
---	-------	-----------	---------

2 早川 朋宏 JPN 法政大学 3:56:40
3 RICHEZE Maximiliano ARG 3:56:40

第4ステージ (2.75km) 札幌市

1 RUBIANO CHAVEZ Miguel Angel COL 3:20.36
2 RICHEZE Maximiliano ARG 3:24.13
3 佐野 淳哉 JPN ダンジョエ 3:27.63

**日本スポートマスターズ 2011 自転車競技会
(2011/9/17-19 石川・内灘/津幡)**

男子1部スプリント

1 亀山 尊仁 神奈川 東燃ゼネラル石油
2 迫間 隆志 岐阜 岐阜聖徳学園高
3 広瀬 千久 三重 昭和四日市石油

男子1部 1km タイムトライアル

1 松本 貞行 京都 コジウテック 1:12.776
2 土谷 学 茨城 日本ホリプロ 1:13.189
3 吉田 隆寛 三重 シーティン 1:15.539

男子1部ケイリン

1 亀山 尊仁 神奈川 東燃ゼネラル石油
2 平尾 貴之 岐阜 東邦テックス
3 迫間 隆志 岐阜 岐阜聖徳学園高

男子1部 3km 個人追抜競走

1 山口 智哉 香川 高松市役所 4:15.999
2 西川 哲也 滋賀 4:28.028

男子1・2部ポイントレース (16km)

1 松本 貞行 京都 コジウテック 31p
2 平尾 貴之 岐阜 東邦テックス 18p
3 尾上 純仁 愛知 名鉄 16p

男子チームスプリント

1 湘南愛輪会 土谷・亀山・市川 1:24.010
2 岩手県 宮・千葉・遠山 1:25.665
3 岐阜県A 平尾・笹原・吉村 1:26.378

男子1部ロードレース (42.4km)

1 算 五郎 愛知 コーヒーハウスカ 1:01:07
2 中西 昭夫 東京 a.k.o 1:01:18
3 清水 琢矢 香川 1:01:35

男子2部スプリント

1 市川 英昭 神奈川 富士建設
2 一木 辰也 大分
3 小松 正典 高知

男子2部 1km タイムトライアル

1 辻本 学 京都 やまと 1:12.812
2 小松 正典 高知 1:13.681
3 佐藤 研一 神奈川 富士金型 1:14.565

男子2部ケイリン

1 市川 英昭 神奈川 富士建設
2 田沼 正 神奈川 TAD
3 一木 辰也 大分

男子2部 3km 個人追抜競走

1 柳澤 正 愛知 JR 東海 3:51.726
2 響田 好博 富山 4:14.290
3 齋藤 徹 福島 ソニーエナジー 4:14.430

男子2部ロードレース (42.4km)

1 藤原 龍治 岡山 CS ウェーブ 1:02:48
2 山本 浩史 大阪 1:02:48
3 岩尾 伸一 奈良 1:02:59

男子3部スプリント

1 松浦 正史 愛媛 東洋殖産
2 古本 清文 富山 古本製作所
3 高橋 文仁 大分 東芝大分工場

男子3部 1km タイムトライアル

1 笹原 康彦 岐阜 花の木歯科 1:12.414
2 松浦 正史 愛媛 東洋殖産 1:14.178
3 高橋 秀樹 東京 カオ 1:15.939

男子3部ケイリン

1 石橋 敬三 東京
2 高橋 文仁 大分 東芝大分工場
3 笹原 康彦 岐阜 花の木歯科

男子3部 3km 個人追抜競走

1 千葉 浩 岩手 3:50.731
2 表 寿史 石川 ホンダカース 4:03.403
3 広瀬 智 富山 成和病院 4:04.163

男子3~6部ポイントレース (16km)

1 千葉 浩 岩手 20p
2 安東 秀倫 岡山 河合郵便局 12p
3 加藤 辰美 埼玉 大宮ZS 10p

男子3部ロードレース (31.8km)

1 大野二美雄 東京 oceanscafe 47:17
2 安東 秀倫 岡山 河合郵便局 47:17
3 中谷 聡 石川 中谷整形外科 47:17

男子4部スプリント

1 越猪 澄 愛知 トヨタ
2 遠山 博 岩手
3 松下 雄一 静岡 駿豆通運倉庫

男子4部 1km タイムトライアル

1 福島 雄二 熊本 ヘステックス 1:16.172
2 稲場 勉 愛知 トヨタ 1:16.303
3 原田 敬史 千葉 サイクル&シティ 1:16.312

男子4部ケイリン

1 山田 宏 新潟 五泉市役所
2 稲場 勉 愛知 トヨタ
3 遠山 博 岩手

男子4部 3km 個人追抜競走

1 五味 実 千葉 CS セキヤ 3:52.726
2 浅倉 基 富山 日本自競 3:57.422
3 田中 謙治 山口 柳井警察 3:59.260

男子4部ロードレース (31.8km)

1 田中 謙治 山口 柳井警察署 50:01
2 松井 正通 京都 山口学園 50:01
3 五味 実 千葉 サイクルショップセキヤ 50:01

男子5部スプリント

1 坂寄 昌弘 栃木 TOKAI
2 羽鳥 浩 神奈川 大明建設
3 梶 宣昭 石川 木工房

男子5部 1km タイムトライアル

1 外勢 肇 愛知 春日井市役所 1:16.215
2 梶 宣昭 石川 木工房 1:20.267
3 小田 秀明 静岡 ジャコ 1:20.572

男子5部ケイリン

1 外勢 肇 愛知 春日井市役所
2 足立 享司 岡山 インテリア足立
3 小屋口陽二 三重 エイワテック

男子5部 3km 個人追抜競走

1 小田 秀明 静岡 ジャコ 4:10.032
2 高橋 秀樹 静岡 ヤマハ 4:12.760
3 吉川 伸 奈良 よしかわ歯科 4:13.932

男子5部ロードレース (26.5km)

1 澤田 龍之 静岡 ススキ 44:16
2 森下 繁 大阪 44:19
3 吉川 伸 奈良 よしかわ歯科 45:43

男子6部スプリント

1 若杉 平雄 愛知 ワコー
2 中村 仁 東京
3 中島 雅利 岐阜 イマコーホレーション

男子6部 1km タイムトライアル

1 安井 光造 滋賀 安井商店 1:22.018
2 吉田 正紀 岩手 1:24.659
3 木村 澄義 山口 1:24.940

男子6部ケイリン

1 若杉 平雄 愛知 ワコー
2 中村 仁 東京
3 中島 雅利 岐阜 イマコーホレーション

男子6部 3km 個人追抜競走

1 木村 澄義 山口 4:23.494
2 池田 孝男 香川 4:42.742
3 中野 武道 富山 中野自動車 4:52.121

男子6部ロードレース (21.2km)

1 長谷部雅幸 大阪 35:10
2 山本 章造 岡山 35:11
3 加藤 健治 愛知 36:28

女子スプリント

1 濱田 真子 東京
2 八幡富美代 石川 桜が丘病院
3 菱田恵美子 滋賀

女子500m タイムトライアル

1 和地 恵美 神奈川 東京工大 41:082
2 三井 由香 兵庫 八景中 42:739
3 菱田恵美子 滋賀 43:901

女子2km 個人追抜競走

1 濱田 真子 東京 2:47.896
2 和地 恵美 神奈川 東京工大 2:52.131
3 八幡富美代 石川 桜が丘病院 3:07.429

女子ロードレース (21.2km)

1 菊池 香 神奈川 アルアイエー 37:29
2 岡田 香織 埼玉 航空自衛隊 37:35
3 深海 美保 東京 吉野家 38:55

**第45回 JBCF 経済産業大臣旗ロードチャレンジオシダ
(2011/9/25 静岡・日本 CSC 8km)**

P1 (128km)

1 ガリガリ・ガキガキ ITA マトリックス 3:51:34
2 鈴木 讓 神奈川 シノノ 3:51:39
3 増田 成幸 宮城 ブリッヂエン 3:51:43

団体成績

1 マトリックスワークス 3900p
2 シノノ 3600p
3 宇都宮ブリッヂエン 2300p

E1 (56km)

1 堀 孝明 栃木 ブラウブリッヂエン 1:42:47
2 若杉 圭祐 愛知 BREZZA 1:42:48
3 小竹 俊輔 埼玉 EQADS 1:42:58

E2 (40km)

1 江越 岳也 神奈川 ミタマパル 1:16:01
2 豊田 勉 愛知 豊田業務店 1:16:01
3 中村 滉平 長野 ホンジャンス飯田 1:16:04

E3 (32km)

1 二俣 雄哉 愛知 イーメイト 59:08
2 高野 淳 神奈川 YOU CAN 59:25
3 小林 宏志 栃木 Honda R&D 59:51

F1.2 (32km)

1 西 加南子 千葉 LUMINARIA 1:09:50
2 高橋 奈美 宮城 Vitesse 1:09:50
3 智野 真央 東京 Muur Zero 1:09:52

10月中旬～12月の大会

期 日	大 会 名	種 目	場 所
10月14日～16日	第14回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース	TR	静岡/日本CSC
10月22日～23日	2011ジャパンカップサイクルードレース	RR	栃木/宇都宮
10月30日	第7回全国ジュニア自転車競技大会	RR	三重/四日市
10月30日	2011年全日本BMX選手権大会	BMX	広島/安芸高田
11月04日～05日	第17回日韓対抗学生自転車競技大会	TR	大韓民国
11月04日～06日	第75回世界室内自転車競技選手権鹿兒島大会	Indoor	鹿兒島/鹿兒島アリーナ
11月04日～06日	'11-'12UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#1	TR	カザフスタン/アスタナ
11月12日～13日	ツール・ド・おきなわ2011	RR	沖縄/名護他
11月13日	第58回全日本プロ選手権自転車競技大会BMXレース	BMX	静岡/日本CSC
11月20日	関西シクロクロス野洲ラウンド (UCIクラス2)	CX	滋賀/野洲
11月27日	関西シクロクロス野辺山高原ラウンド (UCIクラス2)	CX	長野/南佐久
12月01日～03日	'11-'12UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#2	TR	コロンビア/カリ
12月10日～11日	第42回全日本室内自転車競技選手権大会	Indoor	立命館大学びわこ草津キャンパス
12月11日	第17回全日本シクロクロス選手権大会	CX	滋賀/高島

連盟の動き (9月上旬～10月上旬)

9月4日	トラック測定合宿	於：JISS・順天堂大学 (～9/6)
6日	平成23年度第4回常務理事会・第3回選手強化本部会	於：東京・日本自転車会館2号館8階
7日	ACCトラックアジアカップ日本代表選手団出発	於：タイ・バンコク 帰国→9/12
15日	トラック短距離合宿	於：静岡・日本CSC (～9/19)
16日	平成23年度第3回理事会	於：東京・日本自転車会館3号館4階
17日	2011年ロード世界選手権大会日本代表選手団出発	於：デンマーク・コペンハーゲン 帰国→9/27
26日	トラック中距離合宿	於：静岡・日本CSC (～10/1)
10月3日	平成23年度第4回広報委員会	於：東京・日本自転車会館3号館3階

無限の夢へ、走りだそう。



RING!RING! プロジェクト

競輪の補助事業



67TH INTERCOLLEGIATE GAMES

男子タンデムスプリント優勝の早稲田大(右)と2位の順天堂大

男子4km 団体追抜優勝の鹿屋体育大 男子チームスプリント優勝の日本大



< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.183 2011年9月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟
 発行人/富原忠夫
 編集人/塚本芳大
 編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局
 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内
 TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>

